

東京での交換留学生活②

アンカラ大学
ティピジ・イライダ・ユラ

交換留学生としてお茶の水女子大学で勉強したことは、私の人生で最も素晴らしいことのひとつです。日本に来た時の私の主な目的は、留学が終わるまでに日本語と日本社会をより深く理解することでした。この目標は、常に新しい経験や意見を受け入れるように心がけることで達成できたと思います。小さい頃から日本に来たらやってみたくて思っていたことのほとんどを実現できたことをうれしく思っています。

留学の2学期を迎える頃には、すでに東京での新しい生活にもだいぶ慣れました。すべてが楽しいことばかりとは言えませんが、一生懸命勉強すると同時に、日本での時間を最大限に活用しようと努力しました。

東京での学生生活は、いつも活気に満ちていて楽しかった。一年を通して季節が変わるたびに、訪れるべき新しい場所、新しく楽しいアクティビティがありました。



春になると、私たちは公園に行って、全国に咲き乱れる桜の息をのむ美しさを眺めました。世界がピンク色に覆われるのを見るのは不思議な体験でした。



花見を楽しんだだけでなく、春の暖かな日差しの中で友人たちと一緒に様々な屋外イベントやフェスを楽しむことができました。

やがて夏が訪れ、私は日本の別の一面を知ることになりました。花火、お祭り、太陽の下での楽しみがいっぱいの季節。



雨季が終わるとすぐに、暑さから逃れて潮風を楽しむためにビーチに行きました。まだ海水浴シーズンが始まっていないにもかかわらず、たくさんの人で賑わっていました。日本ではサーフィンが盛んだと知ったのも興味深かったです。



祭りの季節には、さまざまなパレードを見たり、おいしい屋台料理を食べたり、音楽、ダンス、花火を楽しんだりしました。隅田川花火大会に行って、東京の夜空に咲き乱れる美しい花火をみんなで眺めました。全身で夏を感じられた夜でした。

この1年間、たくさんの素晴らしい人たちと出会い、一生忘れない思い出をいっぱい作ることができました。これまでお世話になった方々へ感謝の言葉を述べさせていただきます。

萩原先生、留学プログラムの最初から最後まで色々ご指導いただき本当にありがとうございます。

また、森山新先生、毎月忙しい合間を縫って貴重なアドバイスをいただきありがとうございました。

そして国際課の皆さん、特に留学生担当の大野さんには本当にお世話になりました。皆さんの助けがなければ、ここでの最初の数週間を乗り切ることさえできなかったと思います。

最後に、クラスメイトの皆さん、あっという間の一年間でしたが最高の思い出をありがとうございました。無事に卒業できたことに喜びを感じていますが、皆さんとの別れに寂しさを感じずにはられません。これからは離れ離れになっても元気で頑張りましょう。皆さんの輝かしい未来と、これからの活躍を心から祈っています。